

横浜市立高等学校 教育振興プログラム

～平成22年度から平成26年度までの5か年計画～

平成23年3月

横浜市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 横浜市立高等学校 教育振興プログラムについて	2
1 「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」の策定	
2 平成26年度までの工程表	
第2章 横浜市立高校が目指すこれからの教育	6
1 市立高校で育てる生徒像	
2 新たな4つの目標	
3 魅力ある高校教育の推進	
第3章 「選ばれる高校づくり」のための10の重点施策	10
今後5か年で重点的に取り組む施策	
<u>横浜らしい教育の推進</u>	
重点施策1 中高一貫教育校の設置 ～南高校～	
重点施策2 理数教育の充実 ～横浜サイエンスフロンティア高校を中心として～	
重点施策3 国際教育の推進 ～横浜商業高校国際学科とみなと総合高校を中心として～	
<u>進路実現のための支援</u>	
重点施策4 学力向上及び進路指導の充実	
重点施策5 大学との連携拡充	
重点施策6 キャリア教育の推進	
<u>多様なニーズへの対応</u>	
重点施策7 専門コースなどの設置と定時制の企業連携	
重点施策8 特別な支援を要する生徒への教育の充実	
<u>学校の組織力の向上</u>	
重点施策9 教育内容の改善と学校評価	
重点施策10 教職員の育成	
第4章 「特色ある高校づくり」のための新たな使命	22
横浜市立高校各校の使命	

はじめに

横浜市教育委員会は、平成 12 年 3 月に市民ニーズや時代の要請に応じて 10 か年計画、「横浜市立高等学校再編整備計画」を策定しました。この計画に基づき、平成 14 年度に総合学科高校のみなど総合高校及び横浜総合高校を開校、平成 15 年度に横浜商業高校国際学科を設置、そして、平成 21 年 4 月には理数科高校の横浜サイエンスフロンティア高校を開校するなど、高校改革を推進してまいりました。

しかし、科学技術の進歩、情報化、国際化、少子化など、我が国の教育をめぐる状況は大きく変化するとともに、様々な課題も生じています。

また、高校への進学率は昭和 47 年度に 90%を超えたあとも微増を続け、平成 22 年度には 98%となり、高校教育は生徒の能力や適性、また興味・関心、そして進路などに合わせて多様性が求められています。

横浜市教育委員会では改正教育基本法やこうした社会情勢の変化を踏まえ、このたび「横浜市教育振興基本計画」を策定しました。この計画は教育基本法に定められた「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」であるとともに、「横浜教育ビジョン」(平成 18 年 10 月策定)の実現に向けた後期 5 か年の計画です。この計画の中に重点施策のひとつとして市立高校における特色づくりについて示すとともに、今回その実施計画を「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」としてまとめました。

本プログラムに基づいて、特色ある学校づくりに取り組んでまいります。

平成 23 年 3 月

横浜市教育委員会

第 1 章

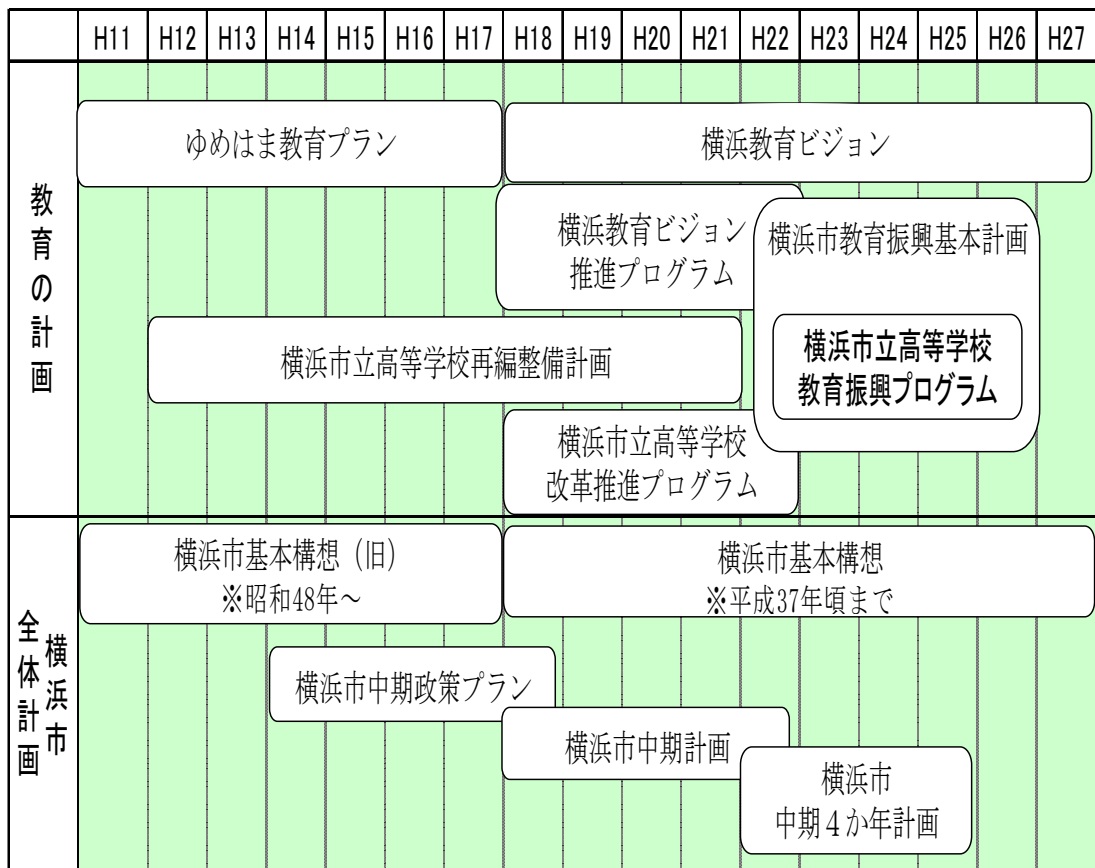
横浜市立高等学校 教育振興プログラムについて



1 「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」の策定

平成 22 年度は「横浜市立高等学校改革推進プログラム」の最終年度にあたるため、計画期間における 4 つの目標を達成するための取組について検証を行いました。この検証も生かしながら、市立高校各校の更なる特色づくりと教育内容の一層の充実のために、平成 22 年度から平成 26 年度までの実施計画として策定したのが「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」です。

【横浜の教育計画と「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」の位置付け】



2 平成 26 年度までの工程表（具体的施策と手順）

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
金沢高校 文理特進コース 設置	進学指導重点校として進路実績向上の取組				
中高一貫教育校開設準備		南高校 中高一貫教育校 開校	中高一貫教育の推進		
学年制移行準備		桜丘高校 ・進学指導重点校指定 ・学年制移行	進学指導重点校の取組		
大岡高校跡地（南区）移転準備			横浜総合 高校 大岡高校跡地移転	企業と連携したキャリア教育の推進	
横浜商業 高校 ・ポータルサイト等 設置検討開始 ・英語力の育成	スポーツマネジメント学科設置準備・英語力の育成			横浜商業 高校 ポータルサイト等を 専門的に学ぶ学科 設置	
戸塚高校 芸術コース 設置検討開始	芸術コース設置準備			戸塚高校 芸術コース 設置	
横浜サイエンス フロンティア高校 ・スパサイエンス ハイスクール指定 ・進学指導重点校指定	スパサイエンスハイスクールとして理数教育推進・進学指導重点校の取組				
東高校 スポーツコース 設置検討開始	スポーツコース設置準備			東高校 スポーツコース 設置	
みなと 総合高校 ・キャリア教育推進 ・国際連携教育推進	キャリア教育の推進と国際性育成の取組				
戸塚高校 定時制 企業等との連携に 関する検討開始	企業連携等による職業教育の実施				
横浜商業 高校別科 理容科、美容科 教育の充実	理容・美容業界を担う人材育成				

※鶴見工業高校は平成 22 年度末で閉校となります。

第2章

横浜市立高校が目指すこれからの教育



1 市立高校で育てる生徒像

確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を基礎に、社会の中で適切に役割を果たす力と自ら考え判断・行動し、問題解決する力を育成し、変化する社会の中で自立する力などの「生きる力」を培うために、市立高校として育てる生徒像を「横浜教育ビジョン」の「知」「徳」「体」「公」「開」に整理したものは次のとおりです。

- 〔知〕 豊かな感受性をもって文化や科学に関心をもつとともに、それらに関する幅広い知識を活用して、課題解決を図ろうとする生徒
- 〔徳〕 礼節をわきまえ、豊かな情操及び人権感覚を身に付け、自らを律しつつ、幅広い人間理解の中で他者と協調し、自他の在り方生き方を尊重する生徒
- 〔体〕 健康で健全な生活の中で自らを律し、スポーツなどの豊かな体験を通して、健康で文化的な生活を創造する生徒
- 〔公〕 地域社会の一員として、横浜の特色を広く理解するとともに、社会の課題に積極的に向き合い、自らの役割を果たすことができる生徒
- 〔開〕 日本や世界の歴史と文化への理解、環境、食糧など地球規模の問題への関心を深め、コミュニケーション能力を伸ばすとともに、国際社会の発展に貢献できる生徒

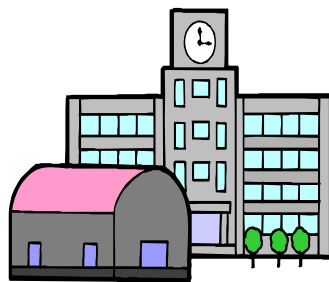
育てる生徒像実現のための方策の概要

- 国語・数学・英語で習得させるべき内容を明確にして基礎基本の充実
- 義務教育段階での学習内容の確実な定着
- 到達目標を明確にして、活用力、探究力、創造力を育成
- キャリア形成の基礎として教科学習を充実

- 道徳教育の充実
- 人権感覚や人間関係を円滑に結ぶ力の育成
- 体験学習や芸術教育を通じた豊かな心の育成
- 適切な勤労観、職業観に基づいた自己の将来像の形成

- 健やかな心と体の育成
- 規則正しい生活の指導
- 自他の生命尊重の態度の育成

- 社会貢献を目的とした体験活動を通して社会参画意識を育成
- 横浜市立高校社会参画・社会体験プロジェクトの実施



- 「日本史」を共通履修科目
- 環境や食糧など地球規模の諸問題について、探究する力を育成
- 国際都市にふさわしい語学教育の展開によって、コミュニケーション能力を育成

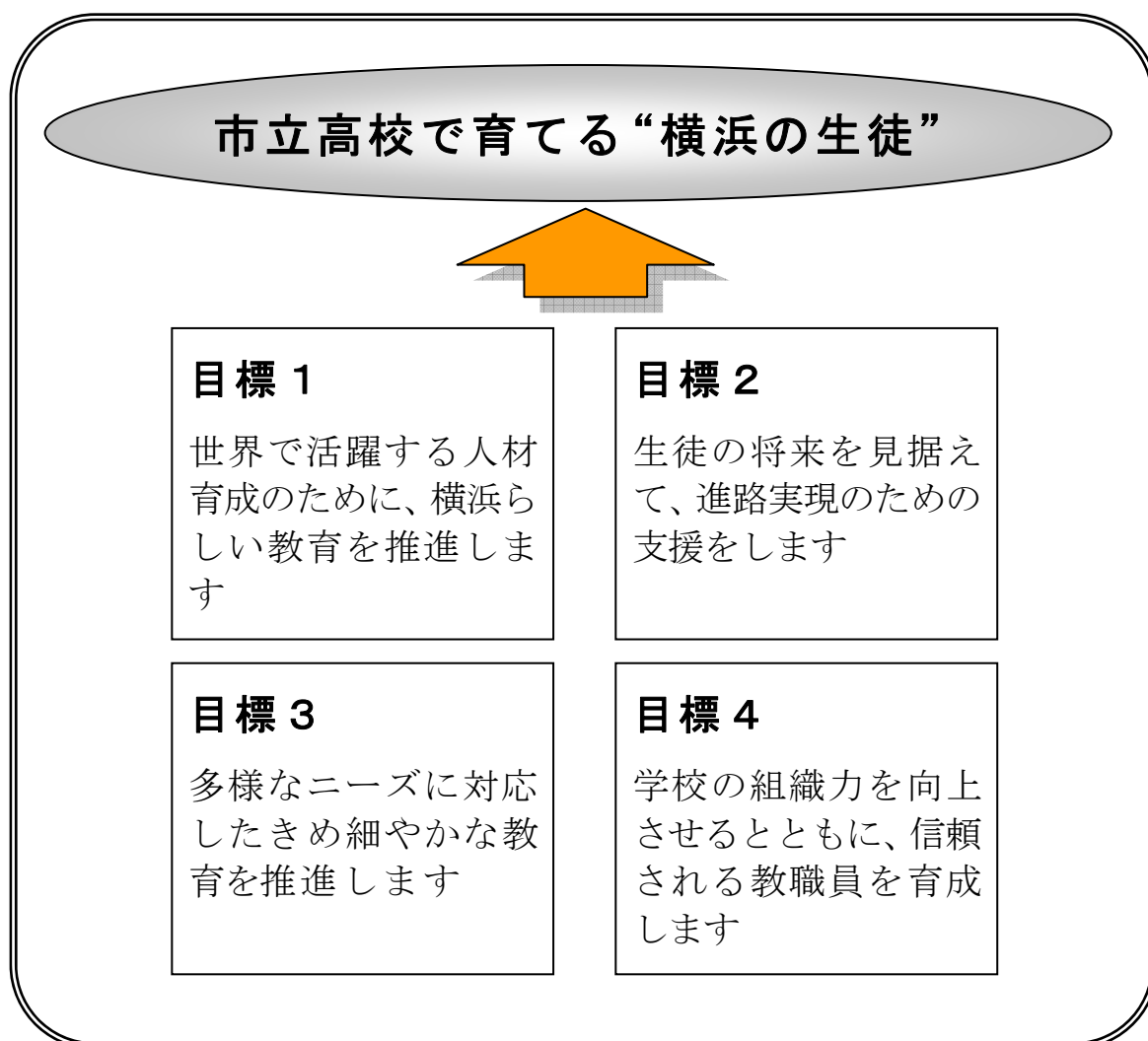
「横浜市立高校版学習指導要領 総則」より抜粋

2 新たな4つの目標

「横浜教育ビジョン」で「教育の使命」として示した、横浜が目指す教育の基本理念は次の2つです。

- 子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体を育むことで、人格の完成を目指し、社会を担う者としての資質を身に付けた「市民」を育成すること。
- 先人が築き上げたものを大切にしつつ新たな挑戦をしていく姿勢、自らが幸せに生きるとともに他者の幸せにも寄与しようとする姿勢を育むこと。

「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」では、「横浜教育ビジョン」の理念に基づいて魅力ある高校教育を推進するため、「4つの目標」を次の通り定めます。



3 魅力ある高校教育の推進

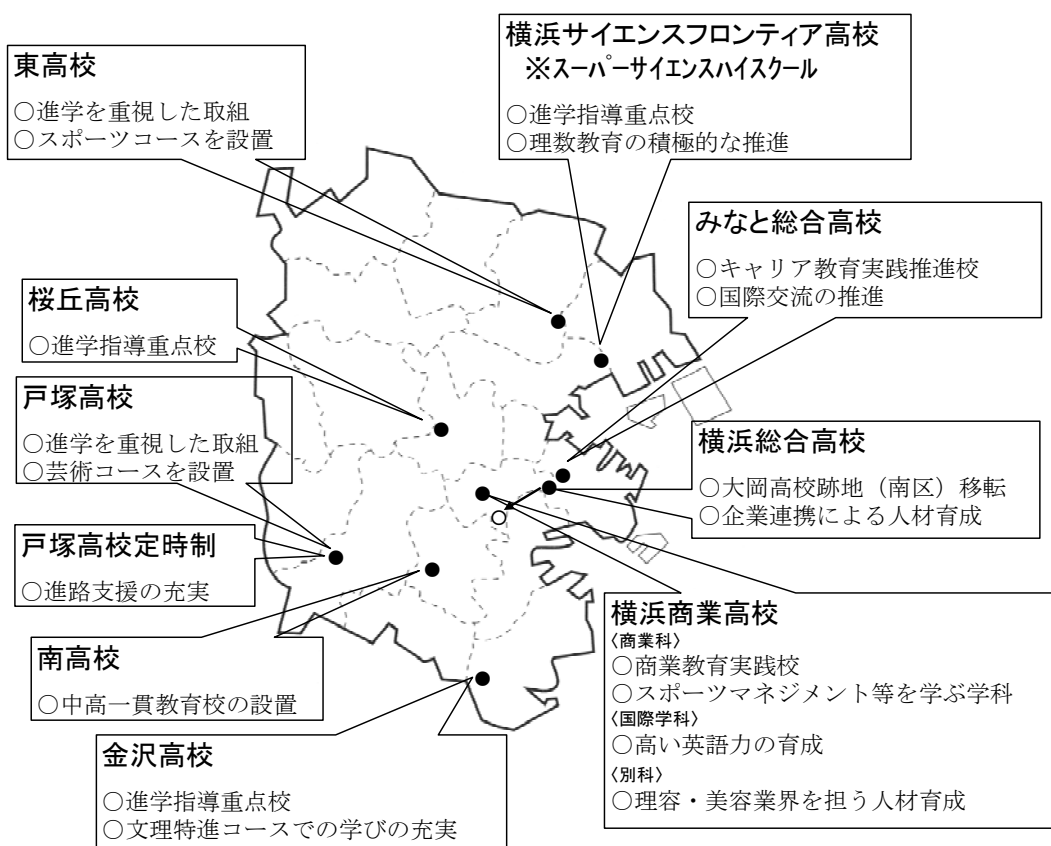
市立高校の取組は「横浜市教育振興基本計画」重点施策6「魅力ある高校教育の推進」に位置づけられ、その方針は次のように示されています。

【施策の方針】

各高校が、時代や市民ニーズに応じた魅力ある高校づくりを推進し、生徒の能力や個性を生かすことのできる進路の実現を目指します。

新たに着手する高校改革の取組及び市立高校各校が「特色ある高校づくり」に向けて推進する取組の概要は次の通りです。

- 国際社会で活躍するリーダーを育てる中高一貫教育校の設置
- 国際教育を積極的に推進する学校の検討
- 横浜市内の企業と連携して人材育成を目指す学校の検討
- 芸術やスポーツなどを専門的に学べる専門コース等の設置



第 3 章

「選ばれる高校づくり」のための 10 の重点施策

今後5か年で重点的に取り組む施策

「横浜市立高等学校 教育振興プログラム」では、“市立高校で育てる横浜の生徒”の実現を目指し、「4つの目標」に沿って、10の重点施策を進めていきます。

計画期間 : 平成22年度から平成26年度までの5か年

目標1 世界で活躍する人材育成のために、横浜らしい教育を推進します

- 重点施策1 中高一貫教育校の設置 ～南高校～
- 重点施策2 理数教育の充実 ～横浜サイエンスフロンティア高校を中心として～
- 重点施策3 国際教育の推進 ～横浜商業高校国際学科とみなと総合高校を中心として～

目標2 生徒の将来を見据えて、進路実現のための支援をします

- 重点施策4 学力向上及び進路指導の充実
- 重点施策5 大学との連携拡充
- 重点施策6 キャリア教育の推進

目標3 多様なニーズに対応したきめ細やかな教育を推進します

- 重点施策7 専門コースなどの設置と定時制の企業連携
- 重点施策8 特別な支援を要する生徒への教育の充実

目標4 学校の組織力を向上させるとともに、信頼される教職員を育成します

- 重点施策9 教育内容の改善と学校評価
- 重点施策10 教職員の育成

重点施策 1 中高一貫教育校の設置 ～南高校～

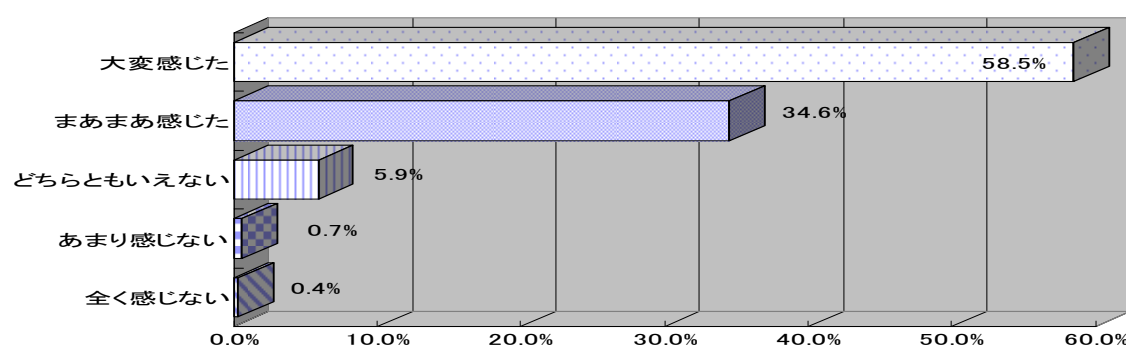
現状と課題

○公立の中高一貫教育校設置に対するニーズの高まり

公立の中高一貫教育校へのニーズが高まっています。

平成 22 年度に合計 22 回実施した説明会で実施したアンケートの結果を見ても、実際に 6 年間の一貫した教育に対して高い期待が寄せられていると分かります。

■アンケート結果「学校に魅力を感じたか」に対する回答



(出典：横浜市教育委員会調べ)

○横浜市立中高一貫教育校で育てる生徒像

市民からの期待に応えるために、教育内容を充実し、横浜はもとより国際社会で活躍する志の高いリーダーとなる人材を育成する必要があります。

重点取組

1 中高一貫教育校の設置

平成 24 年 4 月に、南高等学校に附属中学校を設置して併設型の中高一貫教育校を開校します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
①中高一貫教育校開校	—	24 年度開校
②教育内容の検討及び適性検査の実施	—	○教育内容は 23 年度中に決定 ○適性検査は 24 年度入学生より実施

2 国際社会で活躍するリーダーの育成

6 年間の計画的で継続的な教育課程の編成と教育活動により、豊かな人間性と高い学力を身に付けさせ、リーダー的資質を持った人材を育成します。

重点施策 2 理数教育の充実

～横浜サイエンスフロンティア高校を中心として～

現状と課題

○科学技術の土台となる理数教育の充実が喫緊の課題

科学技術の成果があらゆる場面に生かされている現在、国民一人ひとりの科学に関する基礎的素養の向上が極めて重要です。

○横浜サイエンスフロンティア高校における理数教育の推進

横浜サイエンスフロンティア高校は平成 22 年度には文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、理科や数学に重点を置いたカリキュラム開発を進めていきます。

重点取組

1 科学技術を学ぶ教育環境の整備

横浜サイエンスフロンティア高校では、横浜の小・中・高・大のサイエンスセンターとしての役割を果たすことを目指し、理数教育の教育環境を整備します。

2 理数教育プログラムの開発〈横浜サイエンスフロンティア高校〉

横浜サイエンスフロンティア高校は、スーパーアドバイザーや科学技術顧問の支援を得て教育プログラムを開発し、理数教育の一層の充実を図ります。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
スーパーサイエンスハイスクールとしての研究・開発	—	<ul style="list-style-type: none"> ○科学する心を育成する教育環境の構築 ○知識・知恵連動の教育プログラム開発 ○世界に通用するコミュニケーション能力の育成

重点施策 3 国際教育の推進

～横浜商業高校国際学科とみなと総合高校を中心として～

現状と課題

○国際学科における教育内容の充実

平成 15 年に設置された横浜商業高校の国際学科では、大学受験に必要な幅広い教科における一層の学力伸長が求められています。1 学級のみ設置されている現状から、クラス増を検討するなど国際学科の課題を整理すると同時に、市立高校における英語教育をより一層充実させることが望まれています。

また、横浜を担い、国際社会の発展に貢献できる人材の育成が求められています。

○市立高校における英語によるコミュニケーション能力の伸長

横浜市では平成 22 年度より小学校 1 年生から中学校 3 年生までの 9 年間一貫した英語教育に本格的に取り組んでいます。中学校までに育成された英語によるコミュニケーション能力を市立高校各校でどのように伸ばすかが課題となります。

重点取組

1 国際学科や国際交流活動の検証

横浜商業高校国際学科における成果と課題を整理し、国際社会に貢献できる人材の育成に向けてその在り方を検討します。また、みなと総合高校ではこれまでの国際交流活動の取組を検証し、新たな取組について検討します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
国際学科の検証	—	クラス増などの充実

2 英語活用力の到達目標設定

英語によるコミュニケーション能力を伸長するため、外部検定試験等の客観的指標を活用し、各高校で目指すべき到達目標等を設定します。

重点施策 4 学力向上及び進路指導の充実

現状と課題

○市立高校における学力向上の取組

平成 19 年度から学力向上研究校（金沢高校、桜丘高校）や授業力向上研究校（南高校）の指定により、生徒の学力や教員の授業力向上に取り組んでいます。今後は学力向上と進路指導の充実を目指すとともに、これらの研究成果を全校に還元していくことが求められています。

○市立高校における進路指導

生徒が希望する進路の実現を図るため、国公立大学受験に対応した学力の向上や就職内定率 100% 達成が求められています。

重点取組

1 進学指導重点校の指定

学力向上と進路指導の充実及び希望する進路の実現を図るために、市立高校に進学指導重点校を設けます。指定校には進学指導の向上と高い学力の育成を目指す教育課程の編成に対する支援や、取組内容に応じた財政的な支援等を行います。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
進学指導重点校指定	—	3 校指定

2 市立高校における進路指導の充実

進学に関しては、進学指導の専門知識を有する者を講師とした研修の機会を設けるなど、指導の充実に向けた取組を進めます。また、就職については、ハローワークなど外部機関との連携で、希望する生徒への支援を行います。

重点施策 5 大学との連携拡充

現状と課題

○高大連携協定の締結

平成 19 年 1 月に、横浜市教育委員会は横浜市立大学、横浜国立大学、慶應義塾大学と教育連携に関する協定を結びました。この協定に基づく様々な教育連携を一層拡充します。

○協定に基づく高大連携事業の主な内容

大学名	市立高校名	事業内容
横浜市立大学	横浜サイエンスフロンティア高校	横浜市立大学チャレンジプログラム（特別入学枠設定）
	金沢高校（文理特進コース）	横浜市立大学「フラクティカル・イングリッシュ」受講
	金沢高校（1年生）	高大連携自己形成プログラム受講
	横浜商業高校（商業科）	横浜市立大学教員による出張講義の受講
	横浜商業高校（国際学科）	横浜市立大学教員による出張講義の受講
横浜国立大学	桜丘高校（1年次生）	1年次生対象特別講義の受講
	桜丘高校	横浜国立大学における研究活動等の体験
	横浜サイエンスフロンティア高校	大学教員が科学技術顧問として就任
慶應義塾大学	横浜サイエンスフロンティア高校	大学教員が科学技術顧問として就任

重点取組

1 教育連携協定締結大学の拡充

教育連携を結ぶ大学を現在の 3 校から 4 校に増やします。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
協定締結大学の拡充	3 大学	4 大学で実施

2 教育連携協定締結大学との連携事業実施

現在、横浜サイエンスフロンティア高校、金沢高校、横浜商業高校の 3 校が横浜市立大学との間で実施している様々な連携事業を充実、発展させます。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
協定締結大学との連携事業	3 校	6 校で実施

重点施策 6 キャリア教育の推進

現状と課題

○キャリア教育が求められる社会的背景

平成 22 年 12 月時点での大学生の就職内定率が 68.8%と、調査開始以来最低となりました。市立高校では、適切な勤労観・職業観をはじめとする価値観を育成するために、生徒の将来像に向けた進路指導としてキャリア教育が求められています。

○市立高校におけるキャリア教育

「横浜市立高等学校におけるキャリア教育の指針」を基に、市立高校各校でキャリア教育計画を作成します。

重点取組

1 適切な勤労観・職業観の育成

「基礎的・汎用的能力」の育成を主軸とした体系的なキャリア教育を通して、生徒一人ひとりが働くことと職業そのものに対する考え方を明確にできるように働きかけます。具体的な手だてとして、第一線で活躍する社会人による職業講話や企業との連携による職業体験等が考えられます。

2 生徒一人ひとりのキャリア形成を支援する取組

生徒の実態に応じたキャリア教育計画を作成し、その計画に基づいて、進学希望者の多い学校では社会人や大学生によるキャリア講演会など、就職希望者の多い学校では企業等との連携による職業体験などを実施します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
①キャリア教育計画の推進	—	全校で実施
②社会人による講話等の実施	—	全校で実施
③職業体験の実施	4 校	全校で実施

重点施策 7 専門コースなどの設置と定時制の企業連携

現状と課題

○多様なニーズに応える学科の在り方

市立高校で特定の分野をより深く学習できる学科等として、専門コースの設置を検討する必要があります。

○定時制の課題

横浜総合高校は、平成 25 年度中に大岡高校跡地へ移転するのに伴い、カリキュラムの見直しやガイダンス機能を充実させることが課題です。また、戸塚高校定時制では、課題を抱える生徒への対応が急務です。

重点取組

1 特色ある専門コースなどの設置

市立高校の新たな特色の一つとして、芸術やスポーツなどの専門的な学習ができる専門コースなどを設置します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
特色ある専門コースなどの設置	—	<ul style="list-style-type: none"> ○戸塚高校に芸術コース設置 ○東高校にスポーツコース設置 ○横浜商業高校にスポーツマネジメント等を学ぶ学科設置

2 定時制における進路の実現

定時制に通う生徒の進路実現に向け、企業等との連携による職業教育やキャリア教育及び資格取得のための方策、また、企業関係者等の協力を得て就職先を開拓するなど、様々な就職支援を検討します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
①横浜総合高校の移転整備	—	25 年度移転
②定時制における企業連携等	—	定時制 2 校で実施

重点施策 8 特別な支援を要する生徒への教育の充実

現状と課題

○本市における特別支援教育を推進するための基本指針

横浜市特別支援教育推進会議における特別支援教育推進への提言を受けて、平成 21 年 12 月に横浜市教育委員会では「特別支援教育を推進するための基本指針」を策定しました。

○市立高校における特別な支援を要する生徒への教育の状況

高校における特別な支援を要する生徒への教育の重要性は増すと予想され、次に示す課題への対応が求められてきます。

- ・ 発達障害等特別な支援が必要な生徒の理解と対応に関する研修の充実
- ・ 生徒の実態把握や個々の状況に応じた対応を進めること
- ・ 中学校や関係機関との連携を推進すること

重点取組

1 教職員研修の充実

特別支援教育コーディネーターや外部講師の活用による校内研修を充実させ、教職員の理解を深めます。

2 個への適切な支援

教職員が生徒個々の教育的ニーズを把握するとともに、個別の指導計画を作成し、個別な配慮をしていきます。また、スクールカウンセラー等による教育相談で、心理的な側面からの支援も充実させます。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
スクールカウンセラー等による支援	—	全校で実施

3 中学校等との連携

特別な支援を必要とする生徒について中学校と連携を進め、保護者の了解がある場合には「個別の教育支援計画」を引き継ぐ等、生徒の実態把握に努めます。また、スクールソーシャルワーカー等との連携も検討し、安心して学校生活を過ごせるように適切な配慮をしていきます。

重点施策 9 教育内容の改善と学校評価

現状と課題

○横浜市立高校版学習指導要領

平成 21 年 3 月策定の「横浜市立高校版学習指導要領 総則」及び平成 22 年 2 月策定の「横浜市立高校版学習指導要領 教科等編」に基づいて各高校では教育課程を編成し、特色を打ち出していきます。しかし、生徒や生徒を取り巻く環境の変化に応ずるために、教育内容の改善は常に求められています。

○横浜市立高等学校第三者評価

市立高校では第三者評価を導入し、自己評価及び学校関係者評価と一体的に行うことにより、信頼度の高い学校評価を実現しています。市立高校各校の信頼性を確立し、今後も維持していくために、第三者評価を活用した学校評価の充実が求められています。

重点取組

1 教育内容の改善と充実

市立高校では自己評価や学校関係者評価を利用し、教育内容の検証を行い、生徒や保護者のニーズを把握したうえで、教育内容の改善と充実を図ります。

2 第三者評価の充実と施策への反映

平成 21 年度から実施している第三者評価を活用した学校評価を充実します。学校教育の質の向上と学校運営の改善を一層充実させるとともに、評価委員会から提出された評価結果（第三者評価書）を受けて、教育委員会では教育活動全般に必要な支援を行い、選ばれる高校づくりを推進します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
第三者評価を活用した学校評価の充実	—	学校評価の推進及び評価結果に基づく改善への支援の充実

重点施策 10 教職員の育成

現状と課題

○市立高校の教員数

市立高校の教員は 634 人（平成 22 年度）と少数であり、特に人数の少ない教科では、専門的な研修や研修内容の充実が図りにくくなっています。

○市立高校教員派遣研修

平成 14 年度から市立高校の教員を大学や私立高校や県立高校及び他都市の高校へ 1 年間派遣する研修を実施し、教師力の向上を図っています。研修の成果は市立高校での教育活動へ確実に反映されており、実施の継続が望まれます。

○新たな英語教育に対応した教員の研修

平成 25 年度からの新学習指導要領では、英語の授業を英語で行うことが基本となります。しかし、全国の公立普通科高校では、「大半を英語で授業」をする教員の割合は必ずしも高くないという現状があります。一方で、英語教員のための研修が十分とはいえないという課題も生じています。

重点取組

1 高校教員研修の充実

高校における教育課題への対応や教科指導の専門性向上のため、高校専門研修の実施を検討します。また、高校教員が中学校の現状を理解することで、教育内容の継続性を図り、なおかつ教育力の向上も目指します。

2 派遣研修の継続、発展

市立高校の派遣研修を継続し、内容の充実を図ることで市立高校教員の授業力向上を目指します。

取組内容	21 年度末	26 年度までの目標
派遣研修の継続、発展	平成 14 年度から 21 年度末までに、大学または高校へ累計で 17 名派遣	大学または高校への派遣者を、平成 14 年度からの累計で 25 名以上

3 横浜市立大学等における英語教授法講座の活用 （英語による授業のためのワークショップ）

新学習指導要領における英語教育の充実に向けて、横浜市立大学等の英語教授法講座を活用し、市立高校英語科教員の英語力及び指導力の向上を図ります。

第4章

「特色ある高校づくり」のための新たな使命



横浜市立高校各校の使命

「横浜市教育振興基本計画」58 ページで各校の成果を把握するために示すとしていた指標は、表中の「平成 26 年度の到達目標」です。

1 南高等学校

「中高一貫教育として、豊かな人間性と高い学力を育てます」

- 幅広い年齢集団で行われる教育活動により人間性を涵養する学校
- 質の高い主体的な学習活動を展開して、より高い学力を育む学校
- 他を思いやる豊かな心を育み、将来のリーダーとなる素養を育成する学校

平成 26 年度の到達目標	取組目標（具体）
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業評価における満足度 80%以上 ・センター試験平均得点率 75%以上の受験者 50 人以上 ・国公立大学合格者 35 人以上 ・難関私立大学合格者 延べ 250 人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動等特別活動、体験型宿泊行事等の検証 ・教育相談の計画的実施時間の確保 ・夏期講習等講座受講促進と受講数拡充 延べ 2,000 人以上 ・きめ細かな進路ガイダンス 年間 3 回以上

2 金沢高等学校

「進学指導重点校として、潜在能力を開発し、高い学力を育てます」

- 自主自立の精神を養い、創造性豊かな調和のとれた生徒を育成する学校
- 意欲的に学ぶ態度を養い、高い学力と幅広い教養を育成する学校
- 高い志を持って自らの進路を切り開く力を育成する学校

平成 26 年度の到達目標	取組目標（具体）
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業評価における満足度 85%以上 ・センター試験 5(6)教科 7 科目以上受験者 100 人以上 ・センター試験平均得点率 75%以上の受験者 50 人以上 ・国公立大学合格者 60 人以上 ・難関私立大学合格者 延べ 300 人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時における授業ガイダンスの充実。 「授業ガイド」の作成（作成・説明・評価・改善） ・計画的な夏期講習実施（優先期間の設定） 70 分 5 日間を 1 講座として 80 講座 ・きめ細かな個人面談等の設定 年 3 回以上 ・進路検討会の実施（大学分析及び志望校検討）

3 桜丘高等学校

「進学指導重点校として、潜在能力を開発し、高い学力を育てます」

- 落ち着いた環境のもとで自己を見つめ、進路を定め、その実現に向けてじっくり学べる学校
- 進学の手を見据えた進路実現をサポートし、社会人として通用する幅広い教養と進学を重視した学校
- 日々の授業、多彩な行事、盛んな部活動等あらゆる活動により社会人としての基礎力を涵養する学校

平成 26 年度の到達目標	取組目標（具体）
・ 学校評価における満足度 90%以上	・ 学校評価結果に基づく取組内容の検討 1 回/年
・ 国公立大学合格者 35 人以上	・ 休業中の補習参加者数の増加 1,000 人/年以上
・ 難関私立大合格者 延べ 185 人以上	・ 研究授業の実施 1 回/教員・年以上
・ 部活動の加入率 85%以上	・ 社会貢献活動の充実 30 時間/3 年間

4 戸塚高等学校

「普通科一般コースを設置し、学力向上を目指します」

「芸術コースを設置し、芸術的資質と能力を育てます」

- 自主・自律の精神を養い、自己実現に向けて学びの姿勢を確立する学校
- 人権尊重の精神に基づき、相互の理解と協力により豊かな人間関係を構築する学校
- 地域社会や他者との協働を通し、様々な体験の中で自らの生き方を発見する学校

平成 26 年度の到達目標	取組目標（具体）
・ 学校評価における生徒満足度 85%以上	・ 内部評価と外部評価の活用による学校評価結果の検証、取組内容の検討
・ 大学合格者 延べ 630 人以上	・ キャリアガイダンスの充実
・ 研究授業の推進 100%	・ 組織的な研究授業の実施
・ 部活動の加入率 90%以上	・ 目標設定と活動計画の推進による部活動の充実

5 東高等学校

「普通科一般コースを設置し、学力向上を目指します」

「スポーツコースを設置し、運動技能を育てます」

- 自ら学び、熱心に学習する生徒を育成する学校
- 豊かな心と健やかな体を育み、他人を思いやる生徒を育成する学校
- 社会の一員として役割を果たし、国際社会の発展に貢献できる生徒を育成する学校

平成 26 年度の到達目標		取組目標（具体）	
・生徒の授業評価における満足度	80%以上	・授業評価の実施・結果の検証	2 回／年
・国公立大学合格者	20 人以上	・夏期講習講座数の増	25 講座（受講生徒 800 人）
・現役大学進学者	220 人以上	・履修ガイダンスの充実（教科・学年）	2 回以上／年
・部活動の加入率	93%以上	・ボランティア活動・地域との連携事業実施回数増	7 事業・参加生徒延べ数 800 人／年

6 横浜サイエンスフロンティア高等学校

「進学指導重点校として、高潔な人格、高い学力、科学技術立国への使命感を育てます」

- 様々な教育連携で先端科学技術の知識を習得し、世界で幅広く活躍する人材を育てる学校
- 理数系大学・学部を中心とした国公立及び難関私立大学進学を目指す学校
- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）としての取組を推進する学校

平成 26 年度の到達目標		取組目標（具体）	
・学校評価における満足度	95%以上	・サイエンス教育の充実と推進	
・国公立大学進学者	80 人以上	・横浜市立大学チャレンジの充実	
・難関私立大学進学者	80 人以上	・Y S F H ライセンス取得者	80%以上
・科学オリンピック参加者数	延べ 350 人以上	※分析・観察・観測機器の操作に関するライセンス制度を設けています。	
		・カウンセリング、キャリアガイダンスの充実	

7 横浜商業高等学校 商業科

「商業教育実践校として、高度な資格を取得する力及び進学する力を育てます」

「スポーツマネジメント等を専門的に学ぶ学科を設置し、スポーツに関する知識・資質・能力を伸ばします」

- ビジネス等の実社会で役立つ将来のスペシャリストを育成する学校
- 地域に貢献する即戦力としての人材を育成する学校
- 教科指導や特別活動・部活動を通して全人教育・人柄教育を実践する学校

平成 26 年度の到達目標		取組目標（具体）	
・学校評価における満足度	95%以上	・学校評価結果の検証、取組内容の検討	1 回／年
・国公立大学合格者	5 人以上	・資格取得のための補習 朝・放課後補習等の実施	
・日商簿記検定 1 級・基本情報等合格者	5 人以上	・教育相談、キャリアガイダンス	2 回以上／学期
・全商検定 1 級 3 種目以上合格者	50 人以上	・インターンシップ、体験学習の推進	1 回／年

8 横浜商業高等学校 国際学科

「世界に目を向ける教育を推進し、高い英語力とコミュニケーション能力を育てます」

- 自国の文化を認識するとともに、多文化共生の姿勢をもてるよう国際感覚を育成する学校
- 異文化の中でも積極的にコミュニケーションを図ることができる能力を育成する学校
- 多様化する国際社会で主体的に行動するため、自ら問題を発見し整理し解決方法を追求しつづける能力を育成する学校

平成 26 年度の到達目標		取組目標（具体）	
・学校評価における満足度	95%以上	・学校評価結果の検証、取組内容の検討	1 回／年
・国公立大学合格者	4 人以上	・教職員の授業力向上	全教職員研究授業実施
・難関私立大学合格者	延べ 20 人以上	・教育相談、キャリアガイダンス	2 回以上／学期
		・横浜学生会議の海外・国内参加校の増加	20 校

9 みなと総合高等学校

「キャリア教育実践推進校として社会における実践力を育てます」

「国際交流活動や語学力の習得を通して、国際性を育てます」

- 確かな学力の向上を図り、自主・自学の精神を育て、学ぶ力を伸長する学校
- 総合学科の特長を生かしたキャリア教育を推進し、キャリア形成を支援する学校
- 国際理解教育・異文化理解教育等の取組を実践し、コミュニケーション力を高める学校

平成 26 年度の到達目標		取組目標（具体）	
・学校評価における満足度	85%以上	・学校評価の検証	4 回以上／年
・生徒の授業評価における満足度	85%以上	・授業力の向上	全教職員公開授業等実施
・進路決定率	100%	・学習習慣の定着	自主学習 2 時間以上／日
・大学等進学率	95%以上	・キャリアガイダンスの充実	10 回以上／年

10 横浜総合高等学校

「三部制総合学科高校として社会で自立し、貢献する力を育てます」

「企業と連携してキャリア教育を進めます」

- 一人ひとりの意欲や生活スタイルに応じた学習や体験・探究活動を通して、生きる力を育てる学校
- 様々な個性との出会いやふれあいを通して、社会性を培う学校
- 自分の将来を見つめながら、生涯を通じて自己実現を図ることのできる資質を育てる学校

平成 26 年度の到達目標		取組目標(具体)	
・授業出席率、単位修得率	80%以上	・定期面談の実施徹底、キャリアガイダンス実施 →生徒年 4 回、三者面談年 2 回	
・卒業生の進路決定率	80%以上	・教育課程の見直し、系列構成科目の再構成	
・中途退学者の減少	50 人以下	・課題解決に臨機応変に対応する職員体制の構築	
・資格取得の奨励と支援による取得者倍増	100 人以上	・多部制定時制検討委員会（仮称）による検討	

11 戸塚高等学校定時制

「夜間定時制高校として、社会で自立し、進路を切り開く力を育てます」

- 勤労を尊び、学ぶ喜びをもった生活を営む態度を育成する学校
- 自主的、積極的に学び行動する態度を育成する学校
- お互いの人権を尊重した集団生活を営む態度を育成する学校

平成 26 年度の到達目標	取組目標（具体）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価における満足度の上昇 70%以上 ・ 進学決定者 10 人以上 ・ 就労決定者 55 人以上 ・ 部活動加入率 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価の検証及び取り組み内容の検討 1 回/年 ・ 夏期補習の充実 基礎学力の定着 10%増 ・ 教育相談、キャリアガイダンス行事の充実 4 回以上/年 ・ 部活動委員会の充実 5 回/年

平成23年3月発行
横浜市教育委員会事務局 高校教育課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電 話 045(671)3743
FAX 045(640)1866

